

職業能力評価基準(クリーニング業)レベル区分の考え

レベル区分	レベル区分の目安
レベル 4	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の管理・監督者(シニア・マネジャー)であり、経営方針に基づいて担当部門の中期・単年度計画を立案し、経営者的な視点より統括する組織の計画達成を図るための業務を遂行するために必要な能力水準。 ・会社を代表する専門家(シニア・エキスパート)として、複数分野について高度の専門性を持っていると社内外に認知されるために必要な能力水準。
レベル 3	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の管理・監督者(マネジャー)であり、経営方針に基づいた担当組織の中期・単年度計画を立案し、関係者との調整・協力を行ないながら業務を遂行するために必要な能力水準。 ・専門家(エキスパート)として、複数分野において高度の専門性を持っていると社内に認知されるために必要な能力水準。
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> ・実務の中心メンバー(シニア・スタッフ)として、担当職務に創意工夫を凝らし、自ら判断・改善・提案を行いながら、職務を遂行するために必要な能力水準。
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者(スタッフ)として、上司の指示・援助を受けながら、担当する標準的な業務に改善・工夫を加え、確実に遂行するために必要な能力水準。

* 注: 便宜上、仮の名称として、「エキスパート」「シニア・エキスパート」などカタカナ名称を入れている。
 なお、レベル3「エキスパート」とレベル4「シニア・エキスパート」は、「工場」職種のレベル3とレベル4を想定した呼称である。

クリーニング業におけるキャリア形成の例

